



グリーン交悠録

年末年始特別編
大中主幹・問わず語り②

ゆく年、来る年、
ゴルフを通じて想う時の流れ。
今年も良きゴルフを。

本誌主幹

大中吉一
**素晴らしき
年末年始のゴルフ三昧**

おそらく平成最後となるであろう今回の年末年始も、例年の如くゴルフに明け暮れさせていただいた。

2018年最後のラウンドは12月29日。毎年恒例のコースである三島の「グランフィールズカントリークラブ」であった。今回は、大切な友人である、元自治省事務次官で現在は財団法人地域創造会長の遠藤安彦氏、そしてテラー・ラヤ代表の豊岡敏衛氏とともにラウンドさせていただいた。残念ながら予定していた一般社団法人日本保釈支援協会専務理事の齋尾紀幸氏は年末年始ご多忙とのことで急遽不参加となってしまったが、気のおけない3人でのラウンドは、心温まる年末を飾る有意義なものであった。ちなみに遠藤氏は元東京大学のゴルフ部キャプテンであり、常々生涯に1万ラウンドしたいとおっしゃっており、今でも年間80回以上はコースに出ているらしい。また、豊岡氏は長らく私のスーツの仕立てをお願いしている。テラー・ラヤの顧客リストには、豊岡氏が50年以上前に創業して初の顧客である佐藤

栄作元首相、その御息で大阪タリミナルホテルの社長をされた佐藤龍太郎氏、ゴルフ界のレジェンド青木功氏、歌手のアイ・ジョージ氏など、政財官各界のそうそうたる顔ぶれが並んでいる。豊岡氏は71歳でエージシユートを達成されたが、今でも年間110回以上コースに出るといふ猛者である。

ラウンド当日は快晴ではあったが恐ろしく寒いコンディションで、軟弱な私が懐炉を仕込み両手にグロブという有様なのに対し、遠藤氏、豊岡氏とも80歳近い年齢にも拘らずグロブは片手のみ。ラウンドしながら「1年12か月いつでもゴルフができる日本は素晴らしい」と爽やかにお話されていた。後でお聞きしたところでは、豊岡氏はなんと29日の我々とのラウンド後、30日は東千葉カントリークラブ、31日は米軍多摩ゴルフ場タマヒルズゴルフコース、年が明けて1日は再び東千葉カントリークラブ、2日は浜野ゴルフクラブ、3日は磯子カントリークラブと6日連続でコースに出られたそうで、そのタフネスぶりには感服の至りである。私も50年以上毎年恒例で年末年始を過ごしている富士急行の富士ゴルフコースにおいて、1月

2日、快晴の富士山をバックに本年初ラウンドを行ったが、まさか豊岡氏が5日連続でコースに出ていらっしやるとは思っても及ばなかった。

広く世間では「一年の計は元旦にあり」と言うが、私はかねてから12月1日に1年の計を立てるのを信条としていた。1月1日の朝、元旦に計を立てたのでは後れを取ってしまう。だからこそ、12月1日には翌年のビジョンを立て、12月31日にはその計を実行に移さなければならないのである。

残念なことに、快晴の富士山を背景にラウンドしながら思ったのは見るに忍びない日本の現状である。安倍総理以下、麻生副総理、菅官房長官、二階幹事長による政局は私達に安心を届けはくれるどころか、却って徒に不安を募らせるような有様である。一刻も早く日本の未来を形作るための、コースの上空に広がっていた快晴の青空のように明快なビジョンを示していただきたいと願う。

台風一過のコンペ回想

この場を借りてお詫びさせていたいただきたいのは2018年10月1日に行われたコンペのことである。前日の9月

30日に台風24号が日本列島を直撃するという状況の下、各方面から開催を危ぶむ声もあったが、古い友人であるアドミラルコーポレーションの前田社長からいただいた「台風一過必ず天候は回復する。何があっても私は行く」という心強いお言葉に背中を押される格好で開催に踏み切った。ところが新幹線や航空機の運行の乱れもあり、遠く九州や大阪、名古屋方面からご参加の皆さんからのキャンセルが重なり、参加者100名の予定が68名での開催となった。さらに、当日会場となった府中カントリークラブに来ていただいたみなさんも、都内各所での道路不通や高速道路の閉鎖、さらには大渋滞といった難難辛苦を乗り越えてのご来場であり、開始時間が1時間繰り下げられるほどの大変なご苦勞をおかけしたこと、誠に心苦しく思っている。

このコンペは4年前、前出のテラー・ラヤの豊岡氏の「年間120ラウンドし、その人脈もあるのだから、古希を記念してコンペを開催してはいかがか」というご提案から始まったものであり、そこで不肖大中吉一の名前を冠したゴルフコンペがスタートしたのである。

4回目となった2018年の大会は、ご承知の通りの波乱の開催となり、甚だ多くの皆さんにご迷惑をお掛けすることになってしまった。後日、家内に開催できた旨を話したら「悪運が強い」と言われてしまい、いよいよ穴があつたら入りたい気持ちになった次第であった。思い起こせば、1回目の府中カントリークラブ、2回目の千葉のキングフィールドズゴルフクラブ、3回目の府中カントリークラブと、天気予報に反してまでの晴天に恵まれての開催であつたが、4回目はさすがに晴れはしたが前日の台風の後波は免れず、多くの皆さんにご迷惑をお掛けしてしまったことに反省しきりである。今後はこうしたことがないように精進する所存である。

これからも良きゴルフを

これまでも何回か書いてきたが、ゴルフは1日をかけてじっくりとお付き合いができる絶好のチャンスである。懇親会や宴会ではせいぜい1〜2時間程度のふれあいであるのに比べて、午前後で最低18ホールを共にラウンドする間に、ゴルフのみならず様々な

情報交換が行われ、さらには19番ホー

ルで一緒に風呂に入り、一献酌み交わすという仕儀となれば、これほどじっくりと奥深いお付き合いができるチャンスはめつたにないのである。ゴルフは友人を作り、交流を深め、さらなる明日を共有できる場を提供してくれる素晴らしいスポーツである。そんなゴルフと出会えたことは、我が人生における最大級の大きな喜びであることは言うまでもない。

年末年始の、寒さを除けば素晴らしいコンディション下での、親しい友人と交流しながらのラウンドは、ゴルフアットリに尽きる経験である。「これまで50年以上、ゴルフをやってきた良かった」そう思わせてくれる経験であつた。今年、またコンペをすることができるとあれば、今度こそ最高の条件で、ご参加いただく皆さんが心ゆくまでゴルフの素晴らしさを実感できるものに行きたいと思う。これからも様々な皆さんとの出会いを通じてゴルフ交遊録を広げて行く所存である。どうか読者の皆様もストレスのたまることのない、素晴らしいゴルフライフをお過ごしにならんことをお祈り申し上げる。

月刊公論・主幹 大中吉一 拝